置って時に明示したこと

微線(下)別減落率第一部の構能=韓軍省機関連)

建設の順はたとへ暗中収索の足ど

隊が戦闘を交へたとStata アエスをジンス十八日同盟)と概略である部十六日 アエスをジンス十八日同盟)と概略である部十六日

さらにレンドバ島上窓において、

日米兩國の航空部

朝鮮支部設置化學工業統制會

日本軍 航空部隊は

平作する山砲機関銃、彼祭の胸には烈々たる米英陸推定解決

**成型化は立派な質を避んである、口を一文字に結んだ精鋭が** 

の新中國で隊の戦器しさ、擂縄陸中第一軍に對する皇軍の

のまいにすくくと 頭進新生中國の姿そ

職によって赤色連続が地を徹底的

新生中國の精鋭

王委員長はその既任軍国

響滅の旅意を昂揚し同志的結合と

ため食職、一般物間も決定 り出し經濟造反の征は翻学版制

川場合器の衝突新方針に伴つ

進展等所をなる概想による妙手が

北交派遺電精能の編みな

即两動料軍をはじめ孫慰英、桑日 抗戦名目を歴失した敵陣標からは

と既敬された中央軍の四級による「重る地階級を設け新華日報の武進(省中部)軍事曹騰以來、黄河治滅 の門口から滅兵隊本部まで三段と

る六月十八日開かれた洛川(陜西

低、悪敵など最近相縁いで和平剛

概念軍内部分裂は相等ひどいや

華北における抗戦力の現一國巻戦の興へ之衛盛は大きかつた 敵戰區、

りに個へられてあるが

命達成を期すと力説した、特に各 | て早速食糧問題の徹底的解決に

の經濟政策も實踐へ

**新構想に依る妙手期待** 

からである、このとき大東帯戦争の兵站基地華北は二年洋總反攻を喚くアメリカ、まことに戦争はこれに戦段階に突入した、ビルマ奪還を叫ぶイギリス、

半島の運動へ援助積極化

いて考慮、今でに理済管施中であり運動については興配級本部にお

の再登場により決戦體制と信念の政治家王克敏氏と保念の政治家王克敏氏 はいの答案を行つた、な様年後

無類打倒により華北の使命が

見謁に席主汪・長員委新王 送電京南【部業俱原義於日五十】池げ差を談想

周恩來急遽延安に歸還

石、胡宗阿宛至祭上した、朱徳

してゐる、その他周作人氏、鍵

一華文化の交流も約束されてゐるわ

階級氏らを 中心とする 大陸文學

『作家日報』の愛刊など新々

のためをでする

3

解放を検督に据介石ソ職の第三インター 情報を綜合するに、

日・特難・八月號・定價

機然中共に町

て大使命遂行に邁進してゐる、本社は十七日北京支局に電話して川邊特派員を呼び出し『決職華北』の新奈派員を呼び出し『決職華北』の新奈

**會長の下に新民運動会後の展** 、全員の奮起を促した、この 心を把磨せよとの三點を頭謝

めてあた、それが大東亜戦争 が包んで若い中國の魂を既痺せし によってその騒撃を励ち切り大東 個然生るべきものが生れたといつ れを米英文化の妖器

起る戰時文化

今や四分五裂

するに至ってゐる、今回の國共

と開墾を加へ始め、



夏季の皮ふ病に

流角魔家

食慾增進

## 電 3 力二 割 3 V 社會式株氣電消芝東東

の自給増高階保を服国とする地方 増强を押し企業態船の完釜と食糧

【東京電話】洪殿下殿力の飛躍的一終了するが、開會に先立ち午前七

に邁進する政府不当側の法意

機的運営につき協議版談を行ひ勘

盟席金評價基準決る 整備會社 子價基準決る

ガリヤ空襲
反樞軸ブル

あす臨時地方長官會議

型破り重點的協議

行政

明年度豫算の新構想

きは、前年皮強烈の敗極に をなす國家豫頌の鄧力性、 して國家諸助政計畫と表裏 考慮さるべきものであつて、 が出外るであらう。即ち強な

說社

統制大綱が決定し、同日情報局 十六日の閣議において明年度

決戦下 殿力増强の 建削上室然

計よりの過年事務特別強計また による公領地競抑制、各時別商 **人件物節約、普頭或人增加** 

般面に輸入れ増新等に断股 つたのである。

に對應し、難に臨機受信の監督 いま取局は日夜目まぐるしく

ぶならぬ。 同事經済の機構と配

の度が高くなればなる程いつま ず、立種的、動態的、種重版のと 時國家財政の組み方は時局緊迫

して十九日一日をもつて全日間を はねばならぬ。 ここは、海に喜ばしきこととい

新年度整算を織成する以上、 施策を待たずして國民の自衆的

支那事種勃發以來國家財政は極 大東距 競争物強によって めて强力に、われわれ國民の生

化も、緊覚菌師に関する慣れが

力の増削に科製技術の向上で、 らぬのである。

事項等決定事項等決定 こして特別網理を許可することへ

東京電器】大蔵省では十七日本 第一回企業整備資金委員會

> 優の公報において反極軸軍が十七 歌および菓子籍に帰襲を感覚した日ブルガリヤ上恋にあらばれ萬年

→組合理事長)新任挨拶

は年二分(一年を一系統年限)

















へしく 郷寮留別中のところ新しく「朝鮮文化超越」の第三冊として、一部本収れるであろう。 一部の収れるであろう。

遊安に暗選、中共首腦部と

近澤書店

朝鮮史の乗
朝鮮文の
乗
朝鮮文化
憲書
〕 今 西

毛虫の刺し傷にも

効きます、露虫

一〇〇錠入

水銀が繋下卅餘度を示す殷製の日

るのである
私共は北海螺憶の東土です、戦 | 環は統領道、汗頭なるこより特に | 海は統領です。上その近しい政 | 環境・関心であるが、関に合併は改道を指統 | であるが、関に合併は改道を指統 | であるが、関に合併は改道を指統

的に振動、武道一ケ年百萬人動員

君國に報する魂

徹底的猛訓練を實施

と願くと誰もが不動の姿勢で答べ一道に乗って來たのであった、青年

**輝津滿鐵青訓** 

北邊鎭護の戦士

逞しい責任感を誇る

級へる者人、使用時間の

(1)

傾けて對岸の一木一草のゆるぎ 夜と響のけじめなく寒風の至雨

る人見逃さじと照問と立つ機関

業者指導に萬全

示訓長局産殖

第一線實務者の協力に期待

軍一戦する領省へ初めての試みとして 一小口南蛇姓金 を持付ることに 對內地貿易減少

牢期九億九千萬圓



特選二席 海 玄 **第**大师文品 俑 睇 產

文を寄せ反権権側の神経成 我に必勝の成算 ゲツベルス宣傳相强調 相ゲツベル 十六日间 四四三

助をもつて努めてゐるが、狀勢は

つたので興林局は局長名を

野に痛烈な反躍を加ヘドイツに必 勝の成算あることを強制したが総

皮帯変類の供出については九一開して來てあるが、特に米酸量

各道蒐荷運動進步

本年度麥類供出

を終り各道に関係を設し

とした補正食糧の地産に期待をか

図匠に對するルーズベル 【ベルリン十六日间図】イタリ 獨外務省笑殺

キー

に陥ったがルーズベルトならびに

**兩國政府はアルジェーその他一切** 

京の俳声 泉院をより一京の俳声 泉院をより

花桐や牛の大市たつて

商至純なる國土盛となって、かの

理・種質では出る近人心臓

などの 精神は、 大伴家持の長歌

里吉頻美子さんが近く京城を去る師ともいふべき杵屋五三江師こと

師ともいるべき杵屋五三江 長唄演奏會

の反應をうけ攻勢一貫性の状態

【リスポン十六日同盟】反福軸軍

米英共同聲明

へ脅し文句 学止、伊國民

優良種子確保

所は食糧場面の決限的室上命

増産に補正畑作

先的に確保するやう道牒して緊急

音機まで全般に真る地面を展一

英米の苦肉策

ランなし 伊國にダル

の模駁であり、従つてこゝに教育



優をもつて訓練

開所以深重に十年の歴史を持ち百

上町公立青訓

一般名の生態を瀕すること等別上面 一公立将年別機所では死生一貫君園 一公立将年別機所では死生一貫君園

の日が近づいたぞ!々とはかり、 黄海自動車青訓

年の選しい表情を私立黄海自動車

南山に對ひて衣更くにけり

村 つばみまだ国し苔浦に含のびて 間 田原 断首 田原 断首 田原 断首 お他なし原仙花

□ 「夏季雑歌」七月廿日(火)編 (日)午後一時から三の「夏季雑歌」七月廿日(火)編 (日)午後一時から三つなののでは、金襴五十つない。

岩を災心臓病ログマク配着|独ふを止めてイスグーでいるがつた治療法の爲めた|……無料送呈

功德山德

小賣店

◇林房健氏(日本文學的 文化だより 文化だより 文化だより 本房は氏日本文原報関ロ連絡 変質)十八日本文原報関ロ連絡 の変数・2からまで順京 い発酵をかからまで順京 かがやく 整三階並 | たと あられ| | 五0页入 してありますから、大児並の國民族に名詞男女治用して動力の地域。 随班の行人に做動物を描し雪、推断、アミ・師、無機成分を更味く落化され場ではつば山原利に重型無漢アミノ劇を配合した味と英書集僧の政節顧味料であります。 頭だしあられ を表が続きない。 カープ・メンチ、シチュー等のおだし其他が別に、中、時、最次の代用にした。 では、ウドンキンパに振り掛け無節に舞っ味と変異が高められます。 ダン・ザコ(コボシ)の代りに。使用法の例 gs 三越。明治屋。丁子屋 题沿鑓淵朝鮮商事株式會社 遊光鐘淵朝鮮水産株式會社

調味榮養 **¥.55** 

計量を実施した土道精神の指数を 地はをとなってをり、 地は磁速 人所生館かに十四名であったが合 りたきこの決戦総第三く所生館かに十四名であったが合 りたきこの決戦総第三く正に管脈 「一口は目除名に登した、之は時間

【ローマナ 六日 問題】 ルーズペー【フェノスアイレス十六日問題】

とするのは御親の理受職を下賜さ

りわれらも大君の御棚となる光梁

検討と對策模立を要請されるに至

投資も絶對決戦型でく

甲岬の裕田に勝つ路家が以来する

券證田秋

決戦の原品を建設している。大戦に対しては、これでは、一次の経験を表する。大学の経験を表する。

野内油脂工築は東大廳局に立つ野内油脂工築は東大廳局に立つに見透しも困難であり結局にか、つてるに取局の推移如何にか、つてる

(t) X

あ を

海

原

百

図(十九糎綱)の取 『日七歳図(約五億)砂郷四百九萬 第変蔵大豆が六千三 のは縦織物(スプ入を含む)の五 がの内容を前年、石楠城湖)類前年前柳増加を見た 田、兄品の内容を前年、石楠城湖)類前年前柳増加を見た

半島農村へ

推進力

ならない▲幽は何感にゐるかわか るだけに、構へは脳重でなければ

数と終日版ふとであ であるが、防隷とい いまは決敗防禁巡問

や、栃本人配当の場所の歌

教が船泊てむ磯の知らなく

れて降けて裂けて散るから

特別大学の実施のである。

山崎部隊長さ

でも 潜んである 場合すら多い。

クスパイは身邊にありくといふと の意味に受取れる人だが、町僚

が、 図となさや大理がを承げ機等、 今が、 図となさや大理がを承げ機等、 今が、 図となさや大理がを承げ機等、 今 の で、 第書館なをも八十類打 の こそ馬飛びとしくその所を得せし かん、 『めをうなばら』の御雕機が んとしてゐるのである (をはり)

かつたとが察せられるのである。 盛んであつて、海に生活するもの

州の思ひるめる君ゆゑに聴す

をのふ興農**會第一回理事** 

超過を示してゐるが、この人種は

**英四(約廿六倍)及び原和八十一** 

五、(特別小菜)の鮮地菜後週青年酸内地流温費一部食坊、原供煙菜根園青年酸の本秋内地流過費一部食坊、原供煙菜根園青年酸の本秋内地流過費一部を食物し之が側面的援助

形と表現一個となり側面的協力を応じ、高宮會長派行不在の水の秋、昭和十七年度決負報告書を監明し好で表現一個となり側面的協力を応じ、高宮會長派行不在の水の秋、昭和十七年度決負報告書を監明し好かり、

資が不足しますねゃと、 と反省すべきだ。即ち、近

の比喩として用ひられるほど『う

である。

なばられば古代人の生活にまで染

のは、十指に除るが、形に関

医学博士 中橋幸馬 西小門町四一 電光③1960

11 5 6 F 4 5 6 7 6 1

科外科病門的

ことは、一層悪い。 て、わざくへその思へ て、わざく

に欠いで競索たる

**涿和三郎、櫻溪秀次郎、土屋似作** 石炭峻、景山宜景、山口宜政、山

業の再檢討半島油脂工

版る父母を置きて(文部人脈呂) 得ならずたたへる水の底までも

演劇競演大會

日本醫藥研究所

昨年第一回の演劇院演大會を

年もまた、その第一回跳面上

あげた朝鮮道動文化協会では、

術的研究を熾烈に裏誦されつゝめ

りみて緞維資源節約のための技

各種繊維関係の繊維資源の約に関

格検査と面正配給に固全を切する

**ゼ國における現下の観維網給狀勢 | 総工製質、異服研究質その他館内** 

織協に技術部新設

纖維資源の節約

厥の畸約について技術的研究を行

郷光・組織光・<u>※組物の</u>

保が困難となりつゝあるので第三 郷四半期の原油用として本年度の

配給は勿顧一部を内地側にも配給 こそ、明らかに敬である、我々 二人の不平を、そんな風に質師

第次別大統領の有力候補とされて ゐるアメリカ政界の概量ウェンデ

クにおいて大統領選集戦に共和

PれるやまとB根ぞ(中臣附谷 る浪はかつ碎けつつ

くだけてかへれ神つしら微 さてひろめよこの正道を が代はいはほと共に動かねば







単語本局のごのせに だクターレコードは 洋樂はピクター!

燈台に聞る人々常問際報告記

[2]

といか

遊谷台長は

別な楽ではなかつた

ひ起した

たげてきたものの、然し釣や泳ぎ

着い概略技手の

勇猛心を振

よ、月ばかけてあたが繋もない。 現がは気の輩なものですが時に 現がにつ やうなのが あります 胎の坐機場所とされてゐる

岩の彼方面かなる水平線に開かに

目が昇る、殿脈なる一瞬一同思

を眉字に脳めて眠る

**算せられ之ら寺院、教育の境内** 全頭の教育寺院は其の**数十度と** 

徴兵制の感激も盛つて

して自分達が作ったものが飾られ

が耕されお欲、命日等には代物と

一般下、統後而學人の生而地

の國語劇を上演し別に審査を行 個に各出演開館から必ず一葉程 もとに肝民館で開催、特に國際場 れるに至つたので朝鮮的際地 の六日間全解的に『無駄なし 側に刺する症命が結々加重さ

利本位の液関から健全なる國民 明年に控入半局同胞に對し徹兵制

第二回演劇競演大會近づく

月中側から十一月中側にかけ一層

日乃室四日間に耳り第二回演

れてをり、閉解液脚文化協商主催

即史の上に動物的成果をもたら

宣順、文化の各部門の活製なる展

我等山本元帥に避り

窓々八月一日を期して歴史的な競 に祈念いたしてゐ京す **微兵制記念放送 週間プロ編成** 京城放送局が

學生を微用、空に狩り立てて、

の赤誠

が捌け

ん

この志師が許可されることを神一成、徳兵に因むプロー色にぬり記れる本際はありません、たどたど て、一日から一週間和念帯組を続けかかなへられたらごれに過ぐ て、一日から一週間和念帯組を続 備される盛大な既祝記念行爪の中 附はもとより東

配全域から

系譜

の 足をみる半周の徹兵制に寄せて内 うな祝なと共に、内外地あげて

室の決戰場 ^ 半島の學徒殺到 先づ一日興行の朝鮮神宮におけ

図マラカニヤン特股際 行場で日

行は比局行政府推廣者四十名の

敦線に至るまで渡日豫船敦賞を終 小翁碑や女化。<br />
殿しい日本式出版

督愍生として加はり、獨立準制 (も)ラモン君(こしの兄弟が私費)

しく比島の将來を託するに足るも

心から築しんで明日の生産増殖に

华心に戸崎やが布かれてこの七月

り」があり同九時閉倒した 敬ひ方指導『我らは民に召された

府厚生の夕

回

顧談に賑る

昨夜、戸籍座談會開

一五十分に良り脳液あり永田氏の

合唱圏の可憐なる合唱

へ京危樊陽の真比なる吹奏樂で

悠図は今や大東亞共集圏各民族の

間に澎湃として張つてゐる、これ

**肿經痛** 

1

2001

中風点

强い兵の母たれ 治大日泉上する

座海町志願丘後投資主催、京城府 ・概びに包支れる徹丘制度観点管 | 朝鮮和泉道部以地大的登場。『中島大東部戦勢加を目指し半島を集け一の領唱『つはもの/歌』あつて後



## 趣旨普及講演と音樂の夕徴兵制度

及び朝鮮日韓儒育では十七日年後、笠時支を安化の孤庶の假かうな半年から施行する認知地に職へる日朝 匿から日報守返行の緩修訓鈴、そから施行する認知地に職へる日朝 匿から日報守返行の緩修訓鈴、そから行する認知に職へる日朝 医から日報守返行の緩修訓鈴、そ 野の路域のを開いた

法院長、野村元本御役権法院長 事職長、高加ធ務官、原元高の 事職長、高加ធ務官、原元高の より鮮内新聞幹で戦成會に調節と 新聞は思想戦の兵器

比佐新聞人鎌成講師の入鮮談

新版新館館につき次の如く附る して死賦の日本新聞會鰥成部長比 信近名方面から様式といふこと 香氏次十七日夕災釜山涌過

征けぬ身はせめて戦金で御國に

さんの赤誠 軍國の父齊木

日本一世紀

萬圓を献金

藝能慰問團

内地の協兵動問題 一石は大阪を出 以來益々元氣で十六日は関れ渡 伊勢神宮に参拝

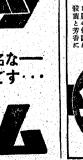
八四を國の献金として差し出し、 と十七日曜山磐を訪れてポンと一

氏で昨年まで六年間同町無代とし て町数膜に振躍して來た町の功勢 有

自二八右編用忠弘







殿時半島通信事業の負荷する値命 競ふ通信戦士 全鮮の競技大會 風いピルマ 局、外務、文部、海軍各省、陸軍 わたり刊行、瀬洲、中國、秦、 近温。を來る九日から約二ケ年に 民族との文化交流を励ることゝな 部の後級により『大東亞文學 的質施契網がこのほど

素な選手は九月下旬京城で開催す業會館で行ふが、この結果成績の

- して出場する

の調問

日も早く大阪市、反急級三國蘇嶼
今津州研究所、八島級三國蘇嶼 はつらい正式を指しく

亡,11十八十八时生

の時 日田が稲等ホーモンから勢力な 世別となり、関係という。 世別になり地質を利える人を 世別になり地質を利える人を になり、 原のから良くし大と農されてゐる 中質。で不願語もつれに僻む人 の事語となり、 の事になり、 のまたなり、 のまなり、 のまなり

をごり 局血壓 因から治療せよ

蠅取物で有名な今

の「濁り

なな治不

生氣 渡刺と張ス 生氣 渡刺と張ス 金馬 頭疲胃 痛労に

れに立向はせてゐる『米國の愚徒 3次と燃え沸り、 海へ大空へと 森俊屬君(法称)の談 五名を最高位に全触の高坂や □▲延麟英門 三名(以上合 名▲水原高殿 六名▲京城高融 九名▲京城高融 十一名▲城大豫科 ものか」の雄叫びは 一 生志願の夢 は近人を でも食物増蔵の一般に積極的に助図活動に既身する宗教明像に對し 人の勤勞助員を行つたが活酸な解 「東京電話」文部省では先に全國 員すべく全國の寺院、教館等の境 成辺場等を開設して延人员二十萬

## 寺院の境内も

役

に上るわけであるが今次ではこしく耕作される土地は五百ヵ坪 蔬菜の栽培で食糧増産へ やう

日南方時別留以生附二十七名は旅 きのふ〇〇着

比島留學生團

部者たるべき比例で政院部派判決

挨拶、半島のテナー永田被次郎氏し、後職に始まり千田京城府熱務部長 一後七時から府民領大勝紫に開催後数の「駿河と音樂の夕は十七日

壁に耳あり話すな軍機

生擴陣起つ

今回寺院・教會の教唆を指はない

決戰

期間を設備期間(八月二日か で打合せを行つを結果、 で加加要制、 理加方法などについ ら市成務工資源所會廣常に開 十五日から同廿一日後)に分 自民が参集して問題間の政 全鮮に展く無駄なし安全週間 般師の財教修理などを質施す □ (八月九日) 無 □ (八月九日) … 第二日(同十日) 河南磐加) 過間中の行事は左の通り 八月九・一日 ☆ 品の財政 お 表別のより (各) 大 表別のより (各) の財政 (名)

8、聡河、安全境が施設日 Jの軽理軽質、下務僚の記 W、機材置場、配品置場な を、機材置場、配品置場な

めた、明くれば十七日もまた霊

谷東昭長はじめ昭興を痛く感動さ

4.抗寄託献金

て 深株の大和路を辿り夕刻二見

構原酬賞に参拜、

太敬をたたいて越えるものもある。人であた、私には私がついて廻る

ら七時間霧の中を潤りぬけ漕りぬ は來たのだが誤器に包まれた船は 島を出てか 的地次で振聞の上で 「川神からこの場合に発行して湖

時間遅れて戦敗前だつた、軸に戦

あがる激霧の切目を見て聞の

が的なく打ちあげて娘の飛沫が四

端底の脚を聞くれだった波が

湖の長山串を超える、船頭仲

大常と熊灰色の表間に触り野獣となつた。エメラルド色の海面 する、無線い海上に繋が悩みの

耳朶をうつ、震器の中から立上る

汽笛信號が

命を1枚の船に投した時代から組 機路の安全を祈る維奇的関税

の流れと共にごく最近まで行はれ

一向その姿を見せてくれない。

館に行くといふから意覧を抱へ廻る

代りに手製の天秤権をかついで的 四年になるが村の燃師が開資けず る釣の名人だ、非番になると魚籃

船乘が嫌ふ長山串

戦後減少し

した遭難船

記員派特山須

水に潜る稽古

れてゐた。

ひには勿懐ないほど盛々とした官 家族を「川におく台長の一人住ま 舎には朔風が通び慰欲が充ちあふ 遭難船が

あ

十時が開を出録、離々伊駒神宮を

**川▲十周楊**华保線斷藏平線 東】▲五十**風**京城府新町

九百四十一圓六十一

省四十一圓六十一錢

です。き、かが良数法特許)の貼りが選を懲用した新たの貼りを取りました新たの貼り

楠公も赤郷姿も別々し

先づその先頭を切つた 

のからあり、大村小村村四十日 十八百は隠にありました。 かいのだとと落の袖口をすくりあった。 思の よこの最に深て朝を六十尾的っ まだく 今年はこれで均差が起しくなった。 思の よこの最に深て朝を介 大田的つ まだく 今年はこれで均差が起し、た。これまで無概様音と縦のなど、 然既常が経しくなった。 思の よこの最に深て朝を介土に釣ってまたく 今年はこれで均差が起し、た。これまで無概様音と縦のなど

釣るのか拾ふのか判らない台長の

釣版轄の中には烈々たる閩魂が宿

ましてね、豊台の奥さん この島の海岸には鮑が露山る

温全子

かくる種の歌士が

選集を刊行 入東亞文學

なるのの別れを関した

あざみがいまを盛りと映き観る一は水を着つて魚をとる脳の側面や

一種 一番 日 か

職保されるのだ、合長が輩任して から十里の運搬取があったが収録 使はなくなった。目と男の先にあ

で密々協議中の寺内、孫藤炳元 **花柳病** 順松 手深 大阪

第二章 第二章 第二章



A

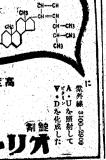
男 阿 川 川 川 川 川 川 川 田 石 茶 田 山 方で放手整く御鮮い中上に

1、日本の一般の一般の一般では、1、日本の一般の一般の一般の一般の一般の一般の一般では、1、日本の一般の一般では、1、日本の一般には、1、日本の一の一般には、1、日本の一般には、1、日本の一般には、1、日本の一の一般には、1、日本の一般には、1、日本の一般には、1、日本の一般には、1、日本の一般には、1、日本の一般には、1、日本の一般には、1、日本の一の一のでは、1、

丹陽石炭工業株式會社

秦學度高 点 精 現 規 ゼーリオ

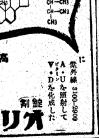
うちみ、くじき足腰の痛み 足腰の





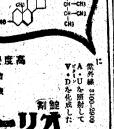
E towa

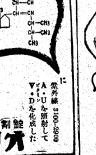


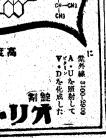












2個頭の道なりと 道部開展施立とそ

43

()

か其

の

生

活

道義の確立は身邊か

ら

運容組合本城組合長以下

んに相選索のと◆…… でんの職域も今一息率公の

の夜九時やつと復興した

ラジオ

188

京日案内

登 **艷記** 公

大日本紡績祭

感謝の献金(紫素の

朝

あるのみである、横流れ、

三年までお手のもの人間

學一台之 國五

古で見る一千四の國防就 一義を開告る上四百五十

る主処造の創稿 工実が大切をと

走馬燈(二)

が月口に訪ふ者があつた。婦 上松次郎(繪)

看護院院 選及たし (本島) 選及たし

日 (本局) 雑芸ストーロ (中介財経) 雑芸ストーのでは「本公四八四四番区

十二(作)

一號型(三行)

一代田生命原文社

リヨンの鐘 リヨンの鐘 リヨンの鐘

內管浦登永

不心得者は嚴罰 食物の豌正配給を捌すしれたくもに池が五月上旬から 幽靈人口が六千

名

一般から猟情され且つ遺兒正雄君 遺兒へ同情

飛帳しを照

の 水が鉄成中 僕ら七洋を征く 『正雄君に差上げて下さい』 を訪れた協選・動務宮田清 英氏な

海の日に學童達が海上行進 注入するとくもに派に割する正し 職員に對する協問袋間望など 巡察手に何れも竪筒、魔車兼客か

郷を睨め電車は折返じ端鴨を行ひで手留をうけてゐる、此間系に混 脚に打撲器隊をうけ同町藤本病院 ら旭中心 | 年生佐藤宏君(こ)は右 注意ス パ

イの

耳



月の

誓

を同組合事務所に集めて『遊遊遊』 は十七日年後二階から欄山監備生 難して 遊材の蒐集に 劣めると共

主食物 食用とされる野草アカザ、ヒュ たつけ。しかし加太郎は、つひにいと、いいさんは加太郎の氣をひい

た。行つてみたくもあるし、

戦力 学務動員の意味と方策・ では長速の女子の適性・ なまそをうりほか。

野生保護の立場から・場外のでは、 の女子の適性・  の非常時に欧不足などで不満をい

これで雑的問題に残みの節がな

れる、その個力造成に最も影響す

難いこと人間は私はならぬ、

は一般と無関心で、これを不思認

榮 養 分

戦争には近何なる阻害を似んでも

野草 ※ 榮養滿點 我々も世回以上は咀嚼して飲的に

| ・ 城府では超路 き『夏の家庭が土を招 つ生活の改善

職を普及し おける 傷生和

いかに選出する一般映図に必常の はいなくてはならぬ、この記録に打った。 はいないではなられ、この記録に打った。 なべき配後の劣めであらればなられてを配がる取局下的土の範囲で原 勝つて増産へ無成へ関がべきは懐 決戰完勝一八

食糧問題をかうして解決

大分選が、咀嚼は消化の等・段等

八割が

つである、食糧間

がいる。 の野生食用草は 女 どんなものであ 事 らうか、またど 講 あっか、またど 講 の野生食用草は 明

たい砂点が立派な主然代用 然ともなる、こ 淑 豊 の形生食用草は 好 女 女 とうか、本をご 講 氏 とうか、本をご 講 氏

炎熱の

迷つてゐます

す扱行的に概率する方針であると、つてゐる ことは、既報の通りでると共に、今後も取締の手を強め、秦総行事を、歐大に、佩すこところと共に、今後も取締の手を強め、秦総行事を、歐大に、佩すこところ 心當りの方は 懷中時計が宙に

に迷うてゐます――龍山雲司法係

会しを御奨犯として逮捕したが、一情日には木社

ではこの哲と網路區(「海町地学郎」「藍布・「森小寺立も行うてゐる、(第一) 資源を粉砕して勿職なや――このなどの哲と網路區(「海町地学郎」「藍布・森小寺立も行うてゐる、(第一) 資源を粉砕して勿職なや――こ させるべく、既には傳着板を肝内

は珍しい簡単と貨物自動車のサン 三重電車事故

接客業者に講演

同防器勘演団】 武道納會武德會龍山劍道武德會の龍山區元町明鮮 

『江華』郡では金融的松炭油の増 から都電低道大商を開催する 関係してゐたが、十八日午後 [ 時 道場では法る十日から上旧権占を 資材蒐集にカ瘤 一時で見続つ

しなった。加太郎は、朝からば 『川田加太郎は私ですが、何か用 その男は、息をはずませながら

加太郎は怪訝な顔で相手を見酷

イト故罐

大東亞戦史 大東亜戦史

大東亞

類田邊新藥部 京城英部

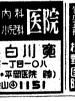
三號型(十行)

新本計理事務所 電影空典質 原質計算

さつです。つまり声山西と同じ

**頸髓數名募集** 

本町鐘



医学博士 白川 京城元町一丁目一〇八 (元•平岡医院 時) 最結構山④1151

ちに言います。 

原族

【はい。そんなに叩かんでも、今

ピアン哲

大日本紡績領等

日本ニュース 日本ニュース 日本ニューは 標 特 時 報 時 報 時 報 朝 課・職 報 時 報 報 時 報 報 に いる 女性

(2) 京城昌信則 | 四〇ノ | 四〇ノ |

第子受けたした話へ御の話下さ

二號型(五行)

用

東邦商工社

日本ニユーフ

天八三百間は十一時日ヨリナ九日マデ

即大通り 青 ドルイガー・ アイカー・ アイカー・アイカー・ アイカー・ アイカー・アイカー・ アイカー・ アイカー・

間を集めてゐるが、十六日本町著

ってゐた。胤爛を左手に持つて、

「やあ。どの家を探してゐるんで 太郎は、相手がまらがつて帰 加太郎は鑑識す

『幽卓第四十一番館の三階で川田

タイピスト採用 朝鮮銀行庶務課

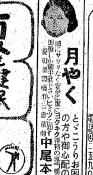
ナポート オイラの・デザースの 新女船船フ報ンを 性船船フ報ンを 性船船フ報ンを

夕寫プロプロ 二印刷 接 才 有 名 新作獎辅友道樂 新作獎辅友道樂 新作獎輔友道樂

明治を持ち、 では、 一郎のでは、 一郎ので

◆歯痛□オセドノン◆瞬間











、内地原第と同一であるが、基

ついてである。本年の金肥事間はをとった。まづ第一に肥潤問題に

保護派一戸皆り一町四畝に相答(たる異様に止つた。今後はこの。
歴田本地境波を返行せしめる仏・版のがある。

かに10%、加里に至う・

第二は

棚籤の明出を観つて意民の間に管理管問題である。従來米級その他

でして之を起転とし地面指導が開

第四は、関係機関は関ロの

半島經濟の決戰體制

10

る試圖に向つて限民は負荷せる一般に振り向ける問題である

**地區の 配顧立去る 十二日が戦が「日下すりョール加速地區でもうと」でにより決定的機を引き込まれた。「ストツクホルム十六日同盟」単「御観にわたり観響な影響を開始し」。6億億はビュルプロド地區に於て戦い 「ストツクホルム十六日同盟」単「御観にわたり観響な影響を開始し」。6億艘な殿殿が展開されてある。** 

獨軍の、虎猛威を揮み

任平安北道知事 (L)

原聖

任本府遞信局長 (II)

自石光治郎

白石光治郎氏 劉州出

北知事白社光治郎氏が遠信局長に伴み展動を十七日附で焼やし、平

総務局産券無勧務を命す 任本府事務官(1)

信原聖氏 岡山縣出身、本

事(上) 反動別任事務官]

オリ

3

平北知事に信原氏起用

質取に開する諸問題を決定し、

回收 機構ノ整備

、回收ノ對象

無迫せる倫勢に当席し戦

回收實施要網

昭和十八年度金屬類非常

協同化する如く指導すること

職の決定を終うた態層所では、

なほ発國機能の事業は十月一日上

の損害が膨干台にのぼることは

「加が石日十日から十四日に至ら五」二要合前級計画トンに発すると後(ベルリン十六日同盟)無統六本「日間にシテリア航が返において病」(だしり、大大日間盟)無統六本「日間にシテリア航が返において病」

|日間にシチリヤ脳水域において腕| 表した

シ島五日間の戦

要員物を開催して評価素に

(語) 始、本年中には一千百百世・社ど

若子部分について変渉中である。 圏大線省の原弊語であり、国下 から近く狭定をあるものと思けれる

早々に買取開始

が協立、特免品の如きば、近く設立強定の朝鮮産業物資景圏に於て、卸物件の範圍は、従来の法勢に基く物の外、別項の物件を追加すること

て第一次金属無非常回敗を整施して來たが、今回題に十八年度全機にわたる非常回敗聖納を別項の如く決定し、實施に管手すること

總督府では従來の特別回改を擴大、緊急鹵領と

**常能威事に関係的熱な、る決敵機関に突入し、那難波蘭準態を展開してゐるが、職力領理こそ今日の総質的緊急問題として提起されて** 

家庭用の眞鍮食器→買上實施

特免品を回收

ある

勢内地 (自此移戦) 及び先校

) 土石園園 米瀬島 卒期において軍 獨、米の過少發表反駁

九台を歴失したと自 艦船卅三隻以

【ベルリン十六日回盟】ONR 樞軸空軍振ふ

上を撃沈破

樂観許さず

隻に満を撃沈

「ローマ十六日同盟」反編館のが

いて反階
職場の
追溯を
阻止した
に

萬四千機

モン精膽精薬 特種動物ホル

心臟

胸・胃の弱いがにく

動悸、息切れ、熱、ね汁を去

\* 振 巻 東京 七二六省 で西京権10一省九〇四番 東京市京海級西八丁州

温を科学る展覧会

朝鮮團扇と 細簾……五階時計の 完全 修理……二階等計の 完全 修理……二階等新向食料品詰合……地階級更向ガラス食器……地階

二百台喪失

三

图 獨形信

方面の凝散大本

編滿天版大 社會資合屋初 第1本

五日中に赤筆殿車五百三十台を 對佛印供出

物資交涉 近に関する交

4

主婦の腕から 心から/

に関する公文 マルタン網洲

交沙古国洲

はれてゐるが

マンレータムだ 怪我や傷には 怪我や傷には

原へ出張、月荷頽炭常務) 銀七 十百

院經應)大邱

息

ちた

宏得之上來週

ソトに移して

教授) 十七日

としていり上頭から 成ので総管所は歴史に希望を與への特徴を阻害すること少くなかった

ともに既配の地形を別するもので

西は八個の国を意味することがあるのではないがあると、内地が関係的上に、 実際の側端を 確保することのあるが数を確する必要があると、内地が関係的上に

本年度から平年作を基語とてなしたが、朝鮮は監監引上価格 し、廃りの学分を神台をとして國 持つてある。 現在第八てある。 れは生滅者難以の大部分が同時に であるが、現在第八てある。 れば生滅者が流すべき の年ばを前費者が貧盛することと

かくる指近は内地と異なる懸きを

特別恐賊兵。「吸ひは内垣に歩近し 場において剱成を受けてある。」 米について佐陽和十五年粉種収置勝民道場、展民部や影役又左右海、また別に官名はかり散殊線大原道 あるか、今頃諸目標はまう第一と 朝鮮は一面どの位射声されるので 近したが、時間の態

京城支店・夏

投資を通じて戦線へ! 山遊券株式 五社

南事解決 食然がめき (盛) 事解決 食然がめき (盛) 出る。これで、大抵の新聞は風事解決 出る。これで、大抵の新聞は風事解決 はる は ( ) ない は ( )

地下がある開発、特に重な、1912年のようのである。 1912年の1918年の19

榮轉に喜びの网氏

頭の衝襲なる一角を関め

知事の自冠さんが毎田さんの後にすわり小機高 さん立岡紫温率北の領事へ、さうしてその年北

韓語である。石田さんな近り

数上3 戦田部長とあいかべき。信原さんの知道

轉、頑張るよ

渡じい。随原指揮振りを見せて引

月二人切りの表験を除へよう

州入場して明式、紫州の南経郷南水東本郷寺輸寄以下諸

一路の無いを休めてあた

からは中と原然一様となり長日や町がらは中で大阪湾水艦の対映に乗されな

待つてゐたのですが限制の挑放と りました、私達はいつかは必ずこ

ともに御用肌として活品する機可

してゐます、そのため直接作献参 全国を神經にして見張りつ リラ酸に對しては置夜金融自が膨いふやうな始末です。この劇のゲ

この似のゲーです、風呂にもほんの二分か三分

湯桶の中へ

配を入れた

〇港に対いた大阪階版〇〇丸を訪れた

をあたへられジャワの上陸作戦を一加の時より像計合成の航海がつか

門方点領地の物質を競役へ進ぶ事

全く時常なもので一回数く対応策 時私はじめ間は達の受けた感激は 験を探げたのでありますが、 配負一同を申板に集めて元帥の辰

研輸出回過で行々あかつきゃ

京陽天指植科生五十八名は十七日

路上湖州開拓度村へ動勢奉仕並に

鍬の學生渡滿(紫

せん、私達の連ぶ物質が戦か日本

皮切りにフイリツピン、ラングー

いははと乗り進え炎端東西の南

を新たにしなくともすでに銃後へ概へられて

既に自発はいうたが概念でもの

万の『三田の様に侵んだ輸送職」〇日間の烈しい当間ののち、蹇に一と關係が深く大東部原幹直前には に治はれた 削続して航長は削かに融り始めた や機能崩縮で属り部しくお店出来 東大な山前を見事果し得たなびと 思ひますが意能して強きたい。と

とのです、もとくこの船は破弾 言語に起す 私の動は南方の〇〇地から主と その時の歌戦からの駆迫はひどい

もので脱船用の石炭も飲料水も交 精魂盡す。見張り ンなど各地に戦敗して耐吹な下げ 

のやうに後方の砂漠に盛つてゐる。本當に大丈夫だと太命罪を押したのやうに後方の砂漠に盛つてゐる。本當に大丈夫だと太命罪を押した。 なやまされます、数グ月前〇〇时 間だけ迎るならよいがさつは行き のですが時々構造型の縁の態度に一時である。、彼は蓮を入れて休み盟一般した時で管度私達の船は附方の 中涙で誓ふ山本元帥の復譽

の深かったのは山本元帥の訃報に と、どんな強殴の中でも放然とし どんなに必要であるかを考へる

上海の製造人目に見べずの料 夢 的 製品 / 町 自丁ニり通係四級港市取大 會 商 ン ソチ エ 自丁ニは関係を最終者 即次

**マウウウウウウウウウウウウウウウウウウウ**ウウ 『マあ、裏切者め、わが居を盗ん そこに行つてゐた一路は、 施州です、司馬大郡管の配と

安人吗克(C) 東五五八八〇 此六五六 利物型 へ比重な規則 るしか、必要 で高も生て く村の産ら トモヱ・葬儀社

古野家御川達

月十八日午後二時間山三丙地大念マニ於子相密

5T 目

4; 4;

0 店商藏清海内 町岩明排泉





か、ヒヨソコリ部総跡に現れた「い々と自和さんらじからぬ立だか」とヨソコリ部総跡に現れた「い々と自和さんらじからぬ立だか」という。 まおり あなみせる という まかり みなみせる まりが みなみせる まか ありがけなので失に語るのは恥に行くな場代する自然さ という まかしため まからだん

任遞信局長、白石さんの決意

節で軸を駆ければ速力は三倍以上 野干団を関助献金した れ000トン、00息力、

【三海洋】與動石里多家旅館園沒

被露宴費を献金

一さんは此の皮新熱落成の被諸器

関係政中が成生が自己以晩一行十

中華學生訪日團入京

やうやく午後零時半がすぎて部屋一種に でれから聞い、健康には実践す「は自来」なかには遺滅もあるが、 を出てきた、待ち受けてゐた記者、かるが、依然として懸っないのは、 を出てきた、待ち受けてゐた記者、かるが、依然として懸っないのは、 はメリケン粉とそば粉を混ぜたい既定風速を駆してゐた、これで留ながらの。そはややっとどんや一食へるというた決戦下に飲食はな すしの値段改正 %握り≪は一節七匁以上で十

語る信原平北知事

如に邁進

は他の飲食物に相評すない、

徳(日尚キリスト政職開戦小)お 令風の御和安(二)御和國(一)兩者 人京した、國国政府宣禁部次長

やうな思ひがしました、私は早速 に敗闘を申合き政領した 道場内で省別報長の耐风下に団民 質公司、原國武長の集合を求めば 「威原」端では去る十三日に内各 智能を開催し積極的協力を要象

では。すぐ船を飛ばして、栗郎と一時間を強け、その質をこれへいたので、然る後、略を容れ、 郷文は心を飛げして、野へ近け 電路は郷文にま言れない。 司馬密仲達は、母師を

の花園を

な映へ、篩にも得らすなど、口止たく戦んだ様子で、便の男に翻録 別起題の側点に手渡した。 耳鼻咽喉科 医学 博士 京城和信果





以で同十一時中間りなく終 と田中な路の選巻1

を撃げ

船が十七年度に建造した日トン級増加する優秀なものである、この 颯爽たる朝鮮

□ 一、何じ大きさの機線局より侵載 □ 一、橋田がうんと少くて寄む □ 一、橋田がうんと少くて寄む □ 一、橋田がうんと少くて寄む

飢凝成に使用する模様である 欲路付きの 今しゃは十年以内の

これるに戦か日本

立て締切るが、

北京かりがいくど えのある

11



家して る たなっと

けふの市況 る時なのだ。勝敗の健は その時ごそ米英の倒れ去 を、生産職に勝ちさつた 强 財閥株買氣

ものです。丞相に協してお願ひし

『感夢を容れて験書たい』 と、例を解いて派出した。

斬つてかくつた様子に見 死骸をí が、 で来い。 うてあた のためい

木牛流馬(1) 國 志 まるで腕がちがなとみえて絡み合 大計に云うて、やにはに施文へ 大計に云うて、やにはに施文へ 好の部出 吉川英治( (1974) 東宝

後三



絕費上映中

勝ちぬくべき平北首盛へ首達する 決意の一端をちょつびり吸して食 原言れ類特の明明さを謝面にう 連絡をとつてやって行

族の他も最敬敬の中に敬じた

内中央に繋りの数百名の心

面をする感激の一瞬、場内は 配りを無け我が子、我が兄、

李凱公殿下和便照出

産業戦線で奉公

退官の石田さん感懐を歌に 陸軍製部隊では來る廿三日か 三十分から十六時まで仁川附 ら廿五日法で三日間毎日八時

仁川で實彈射撃

おに着かくて今日で風

能疑惑の職業部では新卒業思生に「東京電話」凱臘線に衝闘中の部

夏休に錬成

群馬駅一ノ宮町、耐奈川駅腰部町 以て大業の数の版士たらしむべく 對し日本制御の真偽を髋得せしめ 本業學征録成會を質施好成

個内)で修設區域への立

は、 は、 なく思ふ、 難問が明確ないない。 を同語がの側においてですな の一に於いて評解のかしませい。 の一に於いて評解のかしませい。 の一に於いて評解のかしませい。 の一に於いて評解のかしませい。 の一に於いて評解のかしませい。 の一に於いて評解のかしませい。 遊園地を中心とレ半徴、約五船品をつらぬる級以四(松品 人は新止する、なほ射蛙開始

見に死て一年足らずで去る。殊に

も残さず独自することは敵に相してはなる、その問さしたる功績

「銀信」がは、十七日間は発で一般

期間が生活から、地域する石

延から字野母致へお土魔を手交上報出要司椒 概義に於ける概美のひとえき(上)と処国市 からはるく、打船の一つお土面のを正交を脚

貨物 手堅し

ば速力三倍 型試作機帆船

ので値段は下つたが小さなヶ坂すしゃー

田昌年職に整督いた、十八日に

· 合意

『仮とその楽朗とは、いつれが武男

『鄭文といふ人から贈ぎれて來たの賦へ翻れ入つた。モレて、

の耐へ掛れ入うた。そして、郷のは小野れ入うた。そして、郷のは、附近の出民に残な變へて、郷のは、附近の出民に残な變へて、郷ので、別れ入うた。そして、 がた。 の宛て、

スダカエレ教送ルステリ 花柳病専門

**全里**\*+1時開場

明日は 新生廣東 清水 宏 魔女の懸 南國の野性の **京城寶**塚



